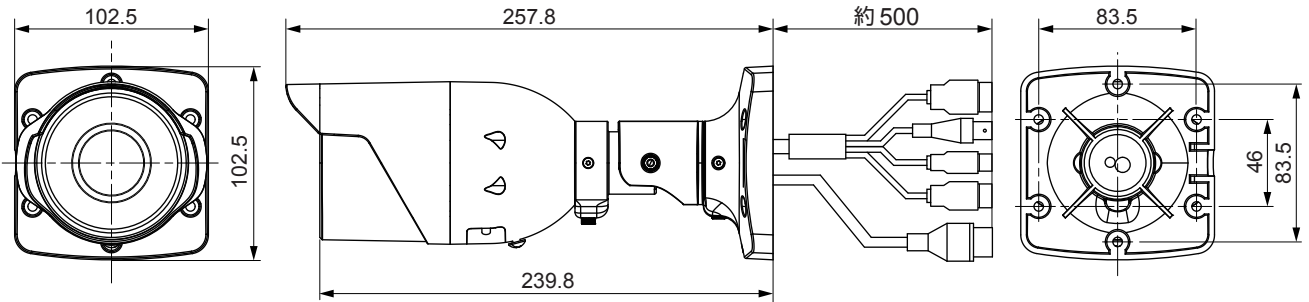


機種名 VN-U178WPR

表記なき単位:mm

寸法図



規格 本機質量 約1.2 kg

使用材料

取付ねじ	ステンレス製ねじ M4 x 12 mm以上
使用数	6本

- ※1.風速60 m/s 対応。
- ※2.設置環境、施工材料により最適な固定方法を選択すること。
- ※3.取付ねじの長さは参考値。
- ※4.アンカーボルトは使用不可。

施工例

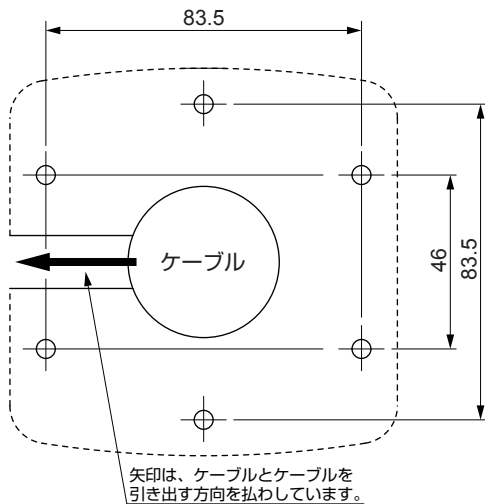


図1 壁面直付け施工寸法図

施工手順(注意事項 5.6.7.参照)

1. アンカー(めねじタイプ)を使用し取り付ける場合
 - 1) テンプレート(付属)を使用し、アンカー(M4)に対応した穴を6箇所あけ、アンカーを挿入する。
 - 2) 必要に応じて、ケーブル通線孔(直径40mm程度)をあける。
ケーブル通線孔をあけない場合は、ケーブル引き出し口を使用する。
2. 板金に取り付ける場合
 - 1) テンプレート(付属)を使用し、取り付けねじ(M4)に対応した孔をあけ、M4用の平座金、ばね座金とナットにて確実に固定する。
 - 2) ケーブルの引き回しは、ケーブル引き出し口を使用すること。(ケーブル通線孔は絶対にあけないでください。水漏れの原因となる場合があります。)
3. ポールに取り付ける場合
 - 1) 補助プレート(VN-H128WPRと同じ)を、ポール取付け金具に取付けてポールに施工します。

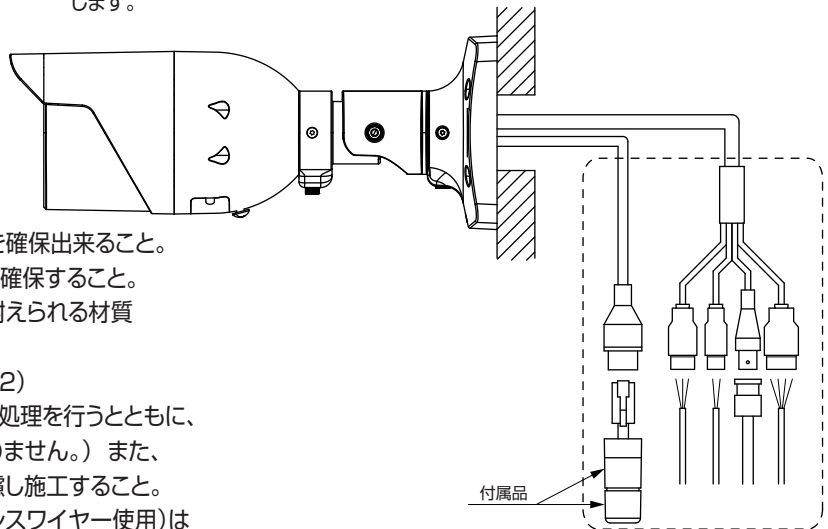


図2 ケーブルの絶縁・防水処理

注意事項

1. 壁面強度は本機の総質量の10倍以上の強度を確保出来ること。
強度が取れない場合は必ず補強を施し、強度を確保すること。
2. 取付けねじの強度は、1本で総質量の10倍に耐えられる材質(ステンレス製)を選択すること。
3. ケーブル類は、確実に防水処理を施すこと。(図2)
配線部分(図2点線部)は、絶縁テープにて絶縁処理を行うとともに、防水処理を確実にすること。(防水対応ではありません。)
また、ケーブル接続部が雨水にて水没しないよう考慮し施工すること。
4. 落下防止ワイヤー(付属していません。ステンレスワイヤー使用)は一方を壁や天井に、もう一方をカメラ本体の落下防止ワイヤー取付ねじに接続すること。(図3)
落下を防止するため、本機の質量に十分耐えられる強度のある落下防止ワイヤーで天井スラブなどに取り付けること。また、落下防止ワイヤーは天井構造物と絶縁できるように接続すること。
5. ケーブル引き出し口を上に向け施工しないこと。
6. ケーブル引き出し口を横にした場合は、ケーブルをU字にたわませるなどケーブルを伝って雨水が入らないよう施工すること。
7. カメラ本体は、本書および取扱説明書に定める施工が正しく行われ適切な防水処理が施された場合にのみ防水(IP66)性能が維持できます。

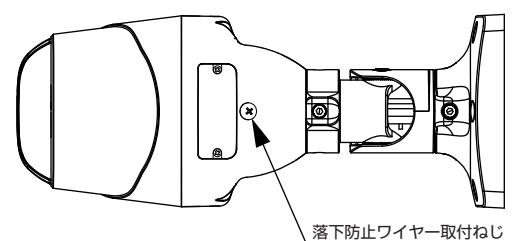


図3 落下防止ワイヤー

機種名 VN-U178WPR

表記なき単位=mm

取付寸法図

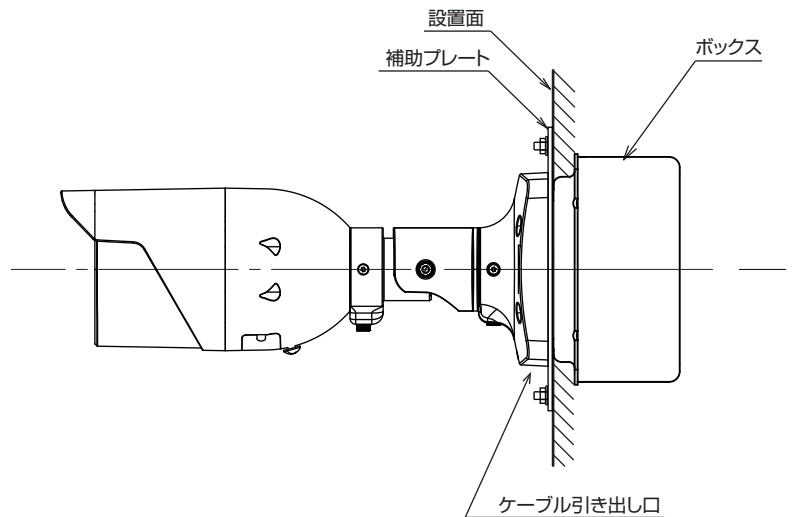
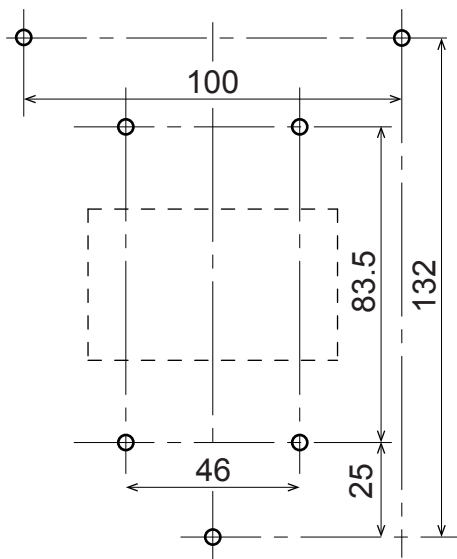
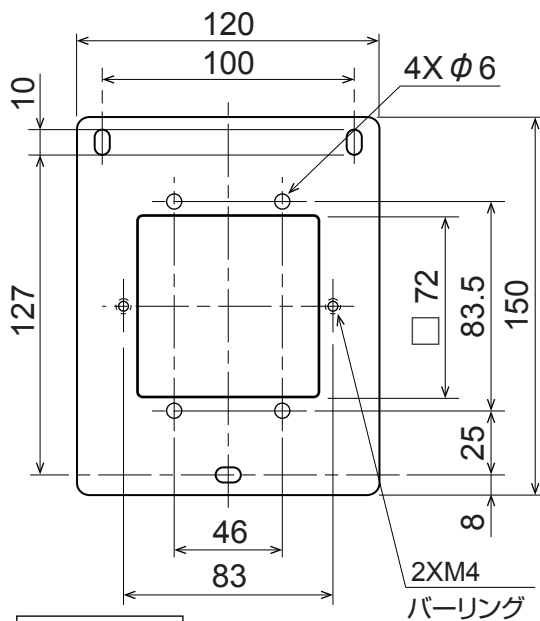


図4 ボックス施工例

補助プレート寸法図

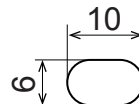


使用材料

取付方法	ボックス	補助プレート	
取付ねじ	ステンレス製 ねじ (M4X20mm以上)	ステンレス製 ねじ (M4X16mm以上)	ステンレス製 アンカーボルトと ナット(M4)
使用数	4本	2本	3本

施工プレート

- 材質：ステンレス鋼板、または亜鉛メッキ処理鋼板 t 1.6
- 仕上：ペールグレー焼付け塗装 (マンセル0.9PB8.5/0.4近似)
- 長孔寸法：



施工手順

- 壁、または天井にアンカーボルト(40mm以上、付属していません)を3本施工します。
- ねじ(M4X16mm以上、付属していません) 2本でカメラを補助プレート(付属していません)に取り付けます。
- ねじ(M4X20mm以上、付属していません) 4本でカメラをボックス(付属していません)に取り付けます。
- 推奨締め付けトルク：0.78 N・m(8 kgf・cm)

注意事項

- ケーブル類は、確実に防水処理を施すこと。(図2)
配線部分(図2点線部)は、絶縁テープにて絶縁処理を行うとともに、防水処理を確実にすること。(防水対応ではありません。)
また、ケーブル接続部が雨水にて水没しないよう考慮し施工すること。
- 落下防止ワイヤー(付属していません)。
ステンレスワイヤー使用)は一方を壁や天井に、もう一方をカメラ本体の落下防止ワイヤー取付ねじに接続すること。(図3)
落下を防止するため、本機の質量に十分耐えられる強度のある落下防止ワイヤーで天井スラブなどに取り付けること。
また、落下防止ワイヤーは天井構造物と絶縁できるように接続すること。
- ケーブル引き出し口を上に向け施工しないこと。
- ケーブル引き出し口を横にした場合は、ケーブルをU字にたわませるなどケーブルを伝って雨水が入らないよう施工すること。
- ボックスに防水処理を施すこと。
防水処理をしない場合は、ボックスに水抜き用の孔を設け外部に雨水が排水されるよう考慮すること。
- カメラ本体は、本書および取扱説明書に定める施工が正しく行われ、適切な防水処理が施された場合のみ防水(IP66)性能が維持できます。